

四季の路から



地域福祉だより(通巻 166 号)

令和 7 年 3 月 31 日発行

森の里地区

地域福祉推進委員会

梅見会の報告

梅見会を 2 月 8 日(土)若宮公園梅園で開催しました。多くの方々のご来場ありがとうございました。
アトラクションのアルプホルン等(スイス音楽の会)、大衆演劇 踊り(深山会)、なごみ太鼓の素晴らしい演奏を楽しみました。募金のご協力ありがとうございました。「能登半島地震災害義援金・救援金」として 20,198 円を日本赤十字社神奈川支部を通して被災地に送りました。

短歌・俳句にたくさんのご応募がありました。

【短歌】中学生の部 43 首、一般の部 13 首 【俳句】小学生の部 63 句、一般の部 26 句
その中から審査会で選定された入選作の表彰式が行われました。

入 選 作 品

【短歌 中学生の部】

吹きぬけた冷たい風がほおかすめ

風ゆく先に星の絨毯

森中二年 * * * *

秋になり色落ちていく木々と山

下には銀杏の絨毯できる

森中二年 * * * *

「ありがとう」君に言われた僕の顔

赤く染まった夕焼け空と

森中二年 * * * *

【短歌 一般の部】

梅咲いてそぞろ歩けば思い出す

天満宮を詣でたあの日

一丁目 * * * *

梅見頃茶柱みつはしやぐ妻

しばしながれるしあわせじかん

三丁目 * * * *

握る手を握り返して頷ける

惚けし父と梅見にあそぶ

五丁目 * * * *

【俳句 小学生の部】

北風が 何か言うぞ 耳すませ

森小五年 * * * *

白きまど ゆびでなぞり 絵をかけた

森小五年 * * * *

梅が咲く 中学生の つぼみ出る

森小六年 * * * *

【俳句 一般の部】

紅梅の 色を選びし 絵の具箱

一丁目 * * * *

懸命に 咲く老梅に 我重ね

三丁目 * * * *

梅三分 行き交う人の 心解く

四丁目 * * * *

ここからは、入選作品を除いた
応募作品を原文のままご紹介します。

【短歌 一般の部】

梅林で深呼吸する我ひとり

全身めぐる梅の香りが

身を寄せて二人ながめた波の花

今は寂しき曾々木海岸

梅園ににぎわいありて舌づつみ

希望の夢に机上戻る

柴折戸の清やかなる中住まへるはい

かなる人か梅の咲く庭

待ち遠しうぐいすの声花冷えに

酒宴の席も肩寄せ合つて

ひだまりの梅の香ふわり手のひらに

のせて背のびの喜寿の春なり

浄土にも咲いていますか去年あなた

と見上げし梅花を今日ひとり見る

一瞬の命なれども華やかに

咲き誇りたる紅白の梅

音の仲間で三十年 老いても

今だ吹けきけり

痴呆症君が私の名前すら忘れる

前の梅一輪

【俳句 一般の部】

霜柱ふんで耐えるぞ襟を立て

今は亡き祖母の好物零余子飯

梅林の木漏れ日の中犬と孫

うぐいすの初音待たれる梅の園

春風に遠くに聞こえる鳥の声

えさ台に目白飛び来てにぎやかに

梅林の匂い馨わし里の山

十月経ち娘のお腹も梅ふふむ

枝垂れ梅蕾みが纏う霜しずく

梅見会ちよつとおしゃれにあの人も

梅咲くや追い込みかける希望校

ふじ棚に引かれて歩く四季の路

梅の花来し方行く末重ねをり

お花見やはしやぐ孫たちじじばうばも

紅葉添え祖母の梅干し宅配で

梅が香や空き家の庭に夕日さす

梅が枝や香をまといてあでやかに

老い深き目を見ひらいて梅花みる

訪れて最後と思ふ梅一輪

春の雨畑の野菜とハイタッチ

梅の花いつかいでもいいにおい

毎年の楽しみ多し梅見会

寒梅のつぼみ膨らみ庭樂し



【短歌 中学生の部】

秋の暮れ黄金に染まるイチヨウの葉

青空の下ひらひらと舞う

勉強で一緒に学ぶぬいぐるみ

いつも一緒に勉強の友

少しずつ冬の寒さになり始め

ほった赤い私と紅葉

持久走走り始めて千五百五分

切るのは至難の業だ

帰り道空に広がるわた

ふと見ればその姿なし

パンパンな筆箱見ては思うこと

やはり違うな一年前と

正月の始めに食べるお餅は

なぜか不思議とよりおいしくなる

鳥たちが寒いと泣いている

雪の中にも響く鳴き声

まつさら茶色い木々に緑色

色づきははじめぼつりぼつりと

冬になりだらだらするのが心地良い

ふとん出られず一日過ごす

年が明けゆらゆらゆれる梅の花

ふらふら踊る人間みたい

白菜切り株みたい大きすぎ

一週間の白菜生活

冷えてゆく季節すぎゆく風の声

待ち遠しいな春のそよ風

香雪や花弦にけがれて綻びし風気に

揺蕩う春の囁き

枯れ落ちた葉つばと北風舞い踊る

夏の暑さが恋しい私

初雪と赤に染まった君の手は

あかり灯されひかりに溶ける

梅の花今日をつけるよ香り立つ

心の中に白き色映え

冬明けて梅の花さく二月ごろ

雪がとけてくまた春が来る

凜と咲く冬の景色に梅の花

北風吹いてひらり舞う夜

朝昼晩猫のしぐさに奪われる

いつでも新鮮その美しさ

桜咲き夏には虫が飛び交うな

秋には紅葉冬には雪が

山茶花に集い蜜すうメジロたち

寒さ知らぐ昼の庭先

自然見よ梅見会にて春雨や

春の夕暮れ山笑う春

色変わりまつかにそまる森の里

さんぼするたび秋を感じる

通り過ぎ素敵な花びら人の前

感じとれる人の営み

風が吹き春の季節に桜散る

春の花見を楽しむ人々

梅の花自ら開くその瞬間

見とれるほどに美しい時

梅のかわかおがしわくちやブルドッグ口

放ればみなブルドッグ

冬の風冷たい空気流れ出す

暖房付けて寒さをしのぐ

ああうまいああねむたいなめしくおう

梅を見ながらもうねようかな

だんだんと寒くなる日々続いてく木

さみしくなりまた冬来る

冬の空天を見上げて輝くは

冬の星たち月の輝き

花が咲く小さいけれど咲いている

今年も決める生涯の場所

ドア開けて踏み出すとザク霜柱

息白くなる耳赤くなる

「ありがとう」感謝の言葉言い合った

冬感じさせぬ人の温もり

春が来て小さな花がめばえたと

風がそよそよとほみが咲いた

梅見会風で花びら散るころは

夜もふけ空には太陽の笑み

早朝の冬の公園枯れている濡れているのに

草枯れている

森の中豊かな自然青い空

いつもの景色変わらぬ光

電光飾色彩豊富に煌めいて

それに重なる美しい雪



【俳句 小学生の部】

年がじょう番号ちゅうせんたのしみだ

プレゼントわくわくしてあげたいな

大みそか紅白のあとそば食べる

いいあさだしろくかがやく銀世界

外見ればあたり一面銀世界

寒い夜しんしんもりきさいだよ

外見たら真っ白なふとんかふかだ

寒い朝こたつの中で二度ねする

北風ふきほくのそばまでおちばくる

寒くなり白い世界へかわつてく

雪がふり子どもたちが遊んでる

クリスマスいいにしないともええな

としあけだひにちがかわり次の年

冬休み学校ないぜおどつちやう

クリスマスこたつに入りだらだらと

冬の神緑のぼくにもプレゼント

冬の朝まじふとんから出たたくない

しんしんと野原に粉雪ふりそそぐ

おしるこを食べたら元気冬の朝

ワクワクのカウントダウン大晦日

冬の空ちらちらちとすがたみせ

お正月黒いかがやき食べたいな

冬休み短すぎて悲しいな

路地の秋紅葉かつちるベンチ横

梅の花色あざやかに咲きほこる

梅が咲きにおいが香るいい香り

梅つぼみ春待ち遠し帰り道

生物は知る赤銅色に染まる秋のすがた

冬休みこたつにみかん最高だ

森の里自然がいっぱいきれいだな

桃色の道のじゆうたん梅の花

梅咲くといよいよ春かと心おどる

冬の日に雪降らぬなら何なんだ

秋に稲刈り鈴虫もりだくさん

春の花梅桃桜きれいだな

春になりあたたかい風こちよい

森の里小鳥の歌で春が来る

若宮の季節知らせるいちようかな

雪が降るあたり見渡す銀世界

冬が明けさらなる青春新たな芽

梅の花ひらひらりと舞い踊る

桜舞う入学式楽しみだ

春風と桜空舞う春の空

庭先に日光がさす梅の花

あたたかい春の日ざしと梅の花

桜咲きめぐりめぐりて森の里

冬が来た木の葉がかれてさびしいな

春になる桜で色づく四季の道

いい天気まわり見ればね梅林

雪だるまつくつてくれてありがとう

これからずつとほくらたのたから

空見ればふわふわとまう白い精

私のかたにまいおりてくる

ねしずまり風のようにふった雪

朝日にてられ笑つてる

寒い日はこたつに入り中見ると

猫がねてるよどんなゆめかな

寒い冬日なたをよーくみてみると

おきものみたいたいなネコがいる

今年こそ夜おそくまで起きるぞと

いきこんでいる夢の世界で

着物着いとのはかま姿で

食べるスイーツは百倍つまい

森の里自然あふれる安らぎの

地平穏な日々とても幸せ

アルバムがめくれていると気が付けば

頬をわたりき流れる涙

窓越しのいつもの君は誰よりも

私のことをときめかせるの

